

令和 4 年度
環境カウンセラー表彰受賞者
活動報告



環境省 環境教育推進室

CONTENTS

はじめに	1
倉田智子	2
阪元勇輝	4
飯尾美行	6
安澤典男	8
松浦陽子	10
富川昌美	12
小林由紀子	14
田口文昭	16
重岡廣男	18
環境カウンセラーズぐんま . .	20

はじめに

環境カウンセラーは、「環境カウンセラー登録制度実施規定」(平成 8 年環境庁告示第 54 号)にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

長年にわたって市民活動や企業・団体の事業活動を通じて環境保全に関する取り組みに従事し、豊富な経験や専門知識を持つなど一定の要件を備える方で、環境保全活動の推進に資する意欲の有る方を毎年公募し、申請にもとづいて論文審査及び面接審査を行い、所定の基準を満たした方を「環境カウンセラー」として認定・登録しているものです。

環境省では、平成 30 年度から環境カウンセラーの社会的な認知向上及び環境カウンセリング等環境保全活動の意欲を増進する等を目的として、環境カウンセラーとして実施又は関与する優れた環境保全活動を行っている、環境カウンセラー及び環境カウンセラーを構成員とする団体に対して環境大臣賞等を授与する環境カウンセラー表彰を実施しています。

第 5 回環境カウンセラー表彰受賞者が決定したので紹介します。

令和 5 年 2 月 12 日

環境省環境カウンセラーサイト

<https://edu.env.go.jp/counsel/>

環境カウンセラー全国連合会

<https://www.minnanoecu.com/>

倉田 智子



表彰理由：環境庁国立公園ボランティア参加の経験から、手賀沼・印旛沼水系の保全活動に従事し、環境カウンセラー千葉県協議会員として地元市と環境展を開催。環境学習の講師や市総合基本計画策定委員会委員等として活動している。また、平成4年からフィリピン・ミンダナオ島での熱帯林保全再生活動に参加しているほか、ガラパコス島の自然環境調査を実施して見聞録にまとめ、環境保全の発信に努力している。

自己紹介

都内から「梨の里」千葉県鎌ケ谷市に移り住みました。梨畑開墾の際の遺跡発掘や梨の花粉付は楽しい体験でした。また鎌ケ谷市の特異な水環境に関心を持ち、印旛沼・手賀沼の水質浄化に関わりました（次頁写真参照）。一方環境庁サブレングャーの活動で箱根に通いました。環境カウンセラー制度には上記市民活動 10 年の振り返りとして、県下の水環境に関し共に活動した仲間と応募し「1 期生」となりました。

これまでの取組み

- ① 日本自然保護協会への入会と自然観察指導員になる事が求められた環境庁サブレングャーは 1985～92 年まで活動しました。
- ② 自然観察指導員はさまざまなテーマを展開出来ます。市民プールの「プールの生き物を見てみよう」と題した観察会は 20 年間実施しました。また 500m 四方にある 3 か所のプールの環境比較を郷土資料館に提案、調査に携わり鎌ケ谷市史・資料編Ⅶに採録されました。プールは施設老朽化により廃止となりましたが、跡地の一角に「ビオトープ」の設置をお願いし、2 年間維持管理を行いました。地域の自然の特性を把握しての活動です。2019 年、日本自然保護協会より「自然保護功労賞」をいただきました。

- ③ 2000～2002 年、船橋市環境調査に河川・水生生物担当主任調査員として従事しました。また調査時に知った戦前の利根川洪水対策の水路の痕跡を 7 年かけて探索、自費出版（「昭和放水路をたどる」2009 年、崙書房）しました。本書には印旛沼へ流れる川を東京湾へと逆流させる計画があります。その舞台であった二重川は、2001 年、河川管理用道路の市民開放が決まり、市民団体が美化を担うようになりました。団体設立時より運営に関わっています。

④ 鎌ケ谷市主催事業

A. 環境展の開催を提言

環境問題は多岐に亘るため、日常生活の安定や向上を目的とする消費生活展では対応できません。EC 千葉の仲間に協力を求め、市民環境展を計画し、開催の主体を 3 年間担いました。その後市の主催となりました。コロナ対策のためのオンライン開催の試みにも各種提案をしています。

鎌ケ谷市民まつりは、歴史的背景から相馬野馬追の「騎馬武者行列」が 2014 年から登場し、この年より環境フェアも同時開催となりました。2012 年から南相馬市の被災地支援に関わり、現地の変容をパネル展示していたため、大勢の人に見ていただく良い機会となりました。

B. 南児童センター「ありんこ探検隊」
子どもの自然体験を重視、地域の自然に触れる機会とし、15年間担当しました。



手賀沼親水広場 シミュレーション・ゲーム
「沼を汚したのはだれ？」

活動事例

① フィリピン・ミンダナオ島 教育支援
1990年代は「持続可能な開発」が謳われる中、国際緑化推進センターの熱帯林造成講座を受講しました。学んだことを活かすため教育支援団体「チボリ国際里親の会」のプロジェクトに参加、「郵政省国際ボランティア貯金配分事業」要員としてフィリピン・ミンダナオ島へ通いました。糸芭蕉の伝統織物を担当、日本での流通に励んでいます。



日本で得た知識が熱帯で役に立つのかという思いはありましたが、炭の「伏せ焼き」の手法を紹介しました。補植の際、殺菌剤は使わず、さらに少しの炭を得られます。苗木はその後良く成長したと聞きました。

② ダーウィン研究所客員研究員助手としてガラパゴス諸島で植物調査

自然観察で培った手法と海外（マレーシア他5カ国）植物調査の経験を活かす機会に恵まれました。動物のみが話題となる現状を憂いていましたが、縁があつて島にたどりつき、島の生態系を形成したのは動物も植物も同じです。どちらが欠けてもガラパゴスは成り立ちません。また市民生活をも記録しました。これらを「環境カウンセラーのガラパゴス見聞録」（2022年、三省堂書店／創英社）にまとめました。

ウミイグアナと固有種カニの表紙写真には、食べられることはないのですかと質問が寄せられました。生き物のふしぎを、長く伝えていきたいと思います。



今後にむけて

SDGs 17の目標の14, 15番目に海と陸の「豊かさを守ろう」があります。しかし「自然が好きなら、SDGsは不要」と嫌う人もいます。サケ類が森林生態系を維持し、「森は海の恋人」で知られるカキの養殖の例もありますが、大半は話を聞くだけに終わり、自然の仕組みを知ったり保全にまで思いは及んでいきません。人間を含め環境問題はすべてつながり、SDGsの目標は単一ではないことを地道に伝えていくこそ環境カウンセラーが担う課題と思います。



阪元 勇輝

表彰理由：環境カウンセラー登録制度開始に伴いネットワークの必要性を認識し、奈良県協会の設立や他の環境カウンセラー組織との連携を進めた。環境省の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証制度創設に向けたパイロット事業から参加し、地域事務局を設立した。また、省エネルギー・CO₂排出削減技術の研究・開発に従事したほか、国や自治体の環境・エネルギー政策に関わる検討委員を歴任している。

自己紹介

奈良県出身：工学博士（化学工学）

地球環境産業技術研究機構（RITE）の地球環境システム研究室（現システム研究グループ）にて、地球温暖化防止に対する複数の国家プロジェクトの研究に従事してきました。特に、様々な環境負荷を評価する手法であるライフサイクルアセスメント（LCA）を専門としています。その後、現在は大学にて、環境関連の講義を担当し、地球温暖化対策技術の研究に従事しています。その一方で、環境カウンセラー（事業者・市民両部門）としての活動に従事しています。

これまでの取り組み

【NPO 法人奈良環境カウンセラー協会の設立】

現在の NPO 法人環境カウンセラー協会の前身で任意団体であった「環境カウンセラーズなら」（H12.11）を設立メンバーとして設立し、現在の環境カウンセラー協会（H16.10）の設立へと繋げ、主として奈良県庁殿とともに奈良県の事業者の方々や県民の方々に対して、奈良県の環境保全活動の普及・推進に努めています。

また、弊協会には、環境カウンセラーの方で、他の環境カウンセラー協会や環境団体に所属している方も所属されており、他の

環境団体の方々とも広いネットワークで繋がっています。弊協会員の方々の努力により、その功績が環境省殿にお認め頂き、弊協会は環境大臣賞「地域環境保全功労賞」（R4.6.17）を頂きました。また、奈良県知事殿からも奈良県知事賞「奈良県環境保全功労賞」（H21.6.11）をも頂いております。



【地方行政との連携構築】

○奈良県殿との連携の構築：

NPO 法人化により奈良県庁殿と連携し、奈良県庁殿の事業として、「CO₂削減アドバイザー派遣事業（環境カウンセラー派遣事業）」および「排出事業者支援事業（環境カウンセラー派遣事業）」を創設し、自らが従事するなど、また、他に奈良県「環境アドバイザー」制度等や他の制度にも従事し、継続的に多くの事業者の方々に環境保全に関するコンサルティングを行っています。

○県内市町村殿との連携：

県内の市町村殿の行政機関（市役所殿、町・村役場殿）との協働・連携をも行っており、廃棄物対策や省エネルギー対策の説明会・講演会等にて、講師を務めさせて頂いています。

○他環境カウンセラー協会との連携・協力：

近畿圏の他の環境カウンセラー協会殿との交流や連携も行っており、講演会の講師や国の補助事業への協力も行ってきました。また、エコアクション 21 (EA21) 審査員でもあり、他のカウンセラー協会殿の EA21 地域事務局殿との連携も行っています。

○県民の方々への環境保全の普及・推進

市民部門の環境カウンセラーでもあることより、事業者の方々だけではなく、奈良県庁殿主催の「環境県民フォーラム」の分科会にも参画し、県民の方々に対して環境保全活動の普及・推進に努めています。

活動事例

活動のキッカケ

事業者部門の環境カウンセラーとして登録頂いたことが活動のきっかけですが、それ以前より、前述の環境関連の研究機関に勤務していたことやエネルギー合理化専門員や新エネルギー有識者等の活動に従事していたことによることも活動のベースになっています。

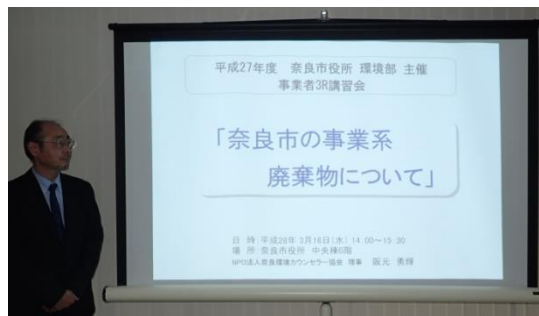
活動例 1：奈良県「CO₂ 削減アドバイザー派遣事業」（環境カウンセラー派遣事業）

奈良県内の事業者の方々に対して、CO₂ 削減のため省エネや再生可能エネの利用に関してのコンサルティングを行っています。



活動例 2：奈良市役所殿主催の排出事業者向け「事業者 3R 講習会」

奈良県全体だけでなく、県下の市町村殿の事業にも参画し、各市町村の状況やその事業者の方々の事情に合わせたコンサルティングを行っています。



苦勞した事・改良点

まず、任意団体であった活動当初は、環境カウンセラーの制度が世間に広く知られていなかったこともあり、活動の場が極めて少なかったことが最も苦勞した点です。

地道な活動を継続することにより、協会員も増え NPO 法人化設立に繋がり、地方行政殿からも信頼を頂けるようになり、特に奈良県庁殿から事業者の方々に対する環境カウンセラー派遣制度の事業を創出して頂けるようになりました。改良点と言うことではないかも知れませんが、地道な活動を継続することやホームページ等にて、情報発信することで、ネットワークが広がり、活動が広く認知されるようになったことが良かった点ではないかと考えています。

今後に向けて

年々、脅威を増す地球温暖化に対して、我が国の「カーボンニュートラル」実現に向けて、特に中小企業事業者の方々に対して、地方行政殿と連携し、省エネや再生可能エネの導入を推進する施策の提案やコンサルティングの推進ができればと考えています。



「地球にやさしいエンジニア」を目指し“共感の輪”を広げる環境教育活動

飯尾 美行

表彰理由：高校教員として、環境ボランティアや環境 ISO 内部監査員養成等を通じた「地球にやさしいエンジニア」の育成に取り組むとともに、環境リーダー育成のための環境教育プログラムを作成。国内の環境教育会議や国際会議等に参加し、活動報告・研究報告をしている。また、静岡県環境カウンセラー協会理事長として自治体との連携を図り、地球温暖化対策や自然環境保全に取り組んでいる。

自己紹介 1953年生まれ。1980年静岡大学大学院工学研究科修了。1980年静岡県立浜松工業高等学校定時制勤務。1988年静岡県立浜松城北工業高等学校勤務。1991年環境教育活動に取り組む。1995年同校環境部創設・顧問。現在に至る。静岡県環境カウンセラー協会理事長(ESD担当)。静岡県地球温暖化防止活動推進センター(アースライフネットワーク理事)。環境省環境カウンセラー。静岡県環境学習コーディネーター。浜松市環境教育推進ネットワーク運営委員。浜松こども館・浜松市立青少年の家運営協議会委員。日本環境教育学会会員。北米環境教育学会・世界閉鎖性海域環境保全会議・世界環境教育会議等で発表。

① これまでの取り組み

私が勤務する静岡県立浜松城北工業高校で、1991年より環境教育活動に取り組む。1995年に実践的な環境教育活動のリーダー育成を目指す「環境クラブ」(現在の「環境部」)を全国に先駆け創設。顧問として27年間、学校における環境教育の推進役を生徒たちに求める中で、多様な環境教育活動を通して、生徒自らが成長しリーダーとして行動する姿を通して、現在までクラスの友人をはじめ家族や地域の人々にも環境教育活動の「共感の輪」を拡げてきています。

② 取組内容(1991年～2023年)

「地球にやさしいエンジニア」の育成を目標に取り組む環境教育活動は、①自然や環境に配慮した“ものづくり”と②地域の自然を守る“環境ボランティア活動”を中心に、主な8つの活動があります。

1. 「地域の自然を守る環境ボランティア活動」(クリーン作戦や里山づくりを中心に

年間35時間以上の環境ボランティア活動を「卒業単位」として認定する県下で唯一の工業高校として生徒610名が単位取得)

2. 「校内の「城北の森」づくり(潜在自然植生110種・547本)をモデルに地域の森づくりにも挑戦」(市内20ヶ所で実施)

3. 「バスによるエコツアー」(森と水をテーマに静岡・山梨・長野等7県で全37回実施、聞き取り調査・環境教育新聞づくり(NIE:Newspaper In Education)に挑戦)

4. 「環境先進国をモデルにリサイクル活動」(デンマークをモデルに「城北工高リサイクルステーション」を設置、専門業者と協力し「ゴミゼロの学校モデル」に取り組む。本校をモデルに「市民のための24時間型リサイクルステーション」が市内各所に設置)



デンマークをモデルにした「城北工高リサイクルステーション」で活動する生徒たち

5. 「城北ジュニア・エコ・クラブ」(本校の環境教育活動のエッセンスをまとめた「体験型環境教育プログラム」を提供する中で、地域の子供たち延べ4500名が来校)

6. 「市民の命を守る防潮堤での森づくり」(静岡県と浜松市が津波対策として建設中の防潮堤(高さ13m、長さ17.5km)に、本校

の「城北の森」をモデルに市民と協力して森づくりに取り組む。植樹累計：長さ 3000 m、9000 本、全長 17.5Km の約 17%)

7. 「全国に先駆け国際規格「環境マネジメントシステム(ISO14001)」・内部監査員の養成に挑戦」(部員 3 名からスタートし生徒 1 3 7 3 名が内部監査員修了証書取得)

8. 「STOP 温暖化若者会議を開催」(浜松市長、環境部長、各校校長を迎えて地域の高校生・大学生が集まり環境活動・環境問題を発表・討議。生徒たちが運営委員のとなり浜松市、浜松市地球温暖化防止推進センターと企画、市内高校 6 校 2 大学で合同開催)

③ 活動事例 活動のキッカケ

日本海重油回収のボランティア活動に、本校より環境部・友人生徒含め 7 4 名が交通費(五千円)を負担して参加。本校の「環境ボランティア活動の原点」となっている。



1997 年ナホトカ号重油回収ボランティア活動をする生徒たち(石川県塩屋海岸にて)

苦勞した事・改良点

学校を一つの「小さなコミュニティ」と捉える中で、どのようにしたら工業高校の生徒を対象に自然や環境に配慮できる「地球にやさしいエンジニア」を育成し、また地球的規模の環境問題にも対応できる「世界市民」の育成ができるか苦勞しました。

改良した点は、生徒たちの取り組みや成長する姿を通して、友人生徒、保護者、市民へと「共感の輪」を拡げられるようにクラスや部活動の枠を超えて取り組んだことです。

④ 今後に向けて

「地球にやさしいエンジニア」の育成を目標に取り組む本校の「自然や環境に配慮した“ものづくり”と「地域の大切な自然を守る“環境ボランティア活動”」が、生徒たちの「良き伝統」、「誇り」となれるよう「共感の輪」を拡げ、社会に貢献して参ります。



「世界環境教育会議:WEEC2019 パンコク」
(World Environmental Education Congress)

「共感の輪を広げる」私たちの挑戦！



環境ボランティア活動
単位取得 **610名**



ジュニアエコスクール
来校延べ約**4500名**



「地球的規模の環境問題と“ものづくりのあり方”を学ぶ」
国際規格「環境マネジメントシステム」
(ISO14001)内部監査員の養成
研修修了・合格生徒**1373名**

部長・副部長の
3名からスタートし
約**450倍**にも！

(2020年度
に完成した
防潮堤に約
1万本植樹)



「城北の森」をモデルに
20カ所に森づくり



防潮堤(全長17.5Km)の
17%に森づくり

カーボンニュートラルへの挑戦
安澤典男



表彰理由：北海道環境カウンセラー協会で自治体の環境施策推進に協力。行政やエネルギー関係機関の依頼を受け、エネルギー管理士登録特別研修やエネルギー管理員養成研修の講師を担当した。中小企業の省エネ対策を進めるため、診断・対策実行・効果検証の支援システムを構築した。また、自治体の水素関連産業参入プラットフォーム事業に参加してさまざまな技術開発を進め、移動式水素ステーションと燃料電池車（FCV）の導入を推進している。

自己紹介

新日本製鐵(株)（現・日本製鐵）1997年退職、ノーステクノリサーチ(株)（現・日鉄テクノロジー）へ転籍、常務取締役を経て2005年（公財）室蘭テクノセンターに勤務、2016年退職、非常勤で現在に至る。鉄鋼製造プロセス・設備技術開発、集塵・騒音対策技術開発および中小企業の省エネ支援事業などに従事。室蘭工業大学非常勤講師などを歴任。特許等出願約160件。

環境カウンセラーとしての活動

行政や大学等からの講演依頼に対応し、鉄鋼業がこれまでに取組んできた環境対策の概要や、棒鋼・線材等の生産プロセスのイノベーションに繋がった、省エネ技術開発事例などを紹介。特に、工程の連続化・簡省略技術、最適化技術、そして新規事業分野で貢献した要素技術開発等の事例を紹介。

活動紹介

【低炭素社会実現に向けた省エネ人材の育成】

燃料並びに熱及び電気の合計のエネルギー使用の合理化を効果的に推進するためには、省エネ人材の育成は欠くことができない。セメント・電力・化学工業などの企業から依頼された、社内研修会・省エネ実践セミナー・エネルギー管理セミナーの講師を務めると共に、地域雇用創造推進協議会の人材育成講習会や、財団法人が行う、エネルギー管理員「新規講



省エネ人材育成講習会の風景

習」・「資質向上講習」及びエネルギー管理士になるための「特別研修」の講師を務めた。また、社団法人の全道会議講演会、行政機関の環境セミナーなどの講師を務めると共に、専門誌「省エネルギー」の【特集】「蒸気の有効利用を考える」【総論】「無駄にしている熱エネルギーの現状と対策」の執筆依頼に応え、新たな視点からの省エネ対策も紹介するなど省エネ人材の育成に貢献した。



2019 Vol.71/ No.12
P22～27 執筆

「省エネルギー」表紙

【省エネ支援システムの構築・実行・普及啓発】

中小企業の多くは、省エネ診断を受けても個々の省エネ対策を単独で実行するのは簡単ではない。そこで、（公財）室蘭テクノセンターを活動拠点とする、地域中小企業の「省エネ診断」から「対策実行」「効果検証」までを一貫支援する「省エネ支援システム」を構築・運用している。



構築事業全国研修会における講演の様子（東京）

その特徴は、支援システムにコーディネーターを位置付け、案件の計画書(P)作成から、実施(D)、チェック(C)、見直し(A)の PDCA のスパイラルアップを図りながら、確実に省エネ対策を実行することである。

支援を受けた企業の中には、「北海道 省エネ・新エネ促進大賞の受賞」、「油煙燃焼システムの最適化技術開発」で、投資ゼロの運用改善でLPG 原単位の約50%を低減し、大幅なコストダウンを達成した事例などがある。

また、「省エネ相談地域プラットフォーム(PF)構築事業」の全国研修会や他県の環境保全協議会等からの講演依頼に対応し、本システムの運用実績とその有効性を全国の(PF)事業者を紹介するため、講演と研修会のアドバイザーを務め、普及啓発活動にも努めている。



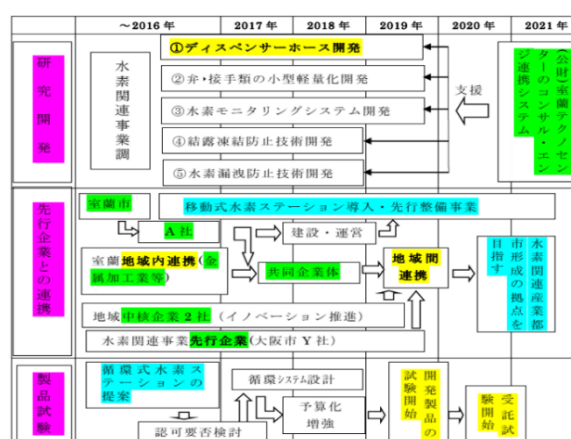
省エネ相談地域プラットフォーム構築事業全国研修会におけるアドバイザー対応の様子（東京）

【水素関連技術調査研究からビジネス展開を支援】

室蘭市が推進する移動式水素ステーション(ST)の整備事業(平成28年3月ST導入)が、地域中小企業の水素関連産業参入のビジネスチャンスと捉え、空気調和・衛生工学会・北海道支部 設備技術研究会 花岡小委員会で、「水素社会実現に向けた地域中小企業のビジネス戦略ー移動式水素ステーション導入の意義」について、第3章を執筆した。中小企業が水素関連産業へ新規参入するシナリオとして、「研究開発」「先進企業との連携」「STの高度利用」の三つがポイントになることを提案した。平成28年～30年度「水素関連産業参入プラットフォーム構築事業」で、研究開発テーマ「耐水素脆性金属材料による水素ST用フレキシブルホース開発」の創出と、「高圧水素用ステンレス鋼管の切削・曲げ加工、溶接技術の確立」が必要になるとして、研究開発を進展させた。今後

は、開発製品の性能評価・実機試験に進む予定である。また、「先進企業との連携」は、地域の「モノづくり企業」と、水素関連産業先進企業の大阪市「Y社」との技術交流会を実施し、相互の技術力などを確認するところまで進展し、地域中小企業が水素関連産業へ新規参入するための足掛かりをつくった。

また、他県の水素・燃料電池関連産業セミナーで、移動式水素STの概要と地域中小企業の水素関連事業への取組み状況について講演した。



水素関連市場への新規参入シナリオ

<開発対象フレキシブルホース>



【開発目標】
・耐圧385 MPa、充填回数100,000回のフレキシブルホースの開発

水素ST用金属フレホース開発 鋼管切削加工技術確

【今後に向けて】

環境カウンセラーの実務能力向上に資するスキルや知識を高める研修会などに参加し、カーボンニュートラル実現に向けた、産学官民の効果的な活動、とりわけ企業の環境保全活動を推進するリーダーの発掘及びその育成に尽力したい。



大阪市「Y社」との技術交流会の様子

松浦 陽子



表彰理由：東大阪環境カウンセラー協会・消費者団体協議会長として、ごみゼロ社会実現を目指し、東大阪市のプラスチックごみゼロトライ宣言（平成元年）に伴って、マイバック・マイボトル普及、ノーレジ袋啓発によるプラスチックごみの削減に取り組んだ。また、食品ロス削減や恩智川の環境整備に努め、周辺地域と連携しながら8kmにわたって菜の花を栽培。児童・生徒を対象とした「水辺の楽校」の開催や、高齢者を対象とした自然観察会の企画講師を務めている。

自己紹介

1998年にドイツへ交流視察の環境担当で参加し、驚きと恐怖を感じ未来の事を見据えて、1からやり直さなければならない覚悟で、カウンセラー資格を取り、啓発に励むようになりました。昭和21年小学校1年で母が着物から洋服を作り、美しい出来栄えに得意になって通学したこと、今はやりのアップサイクルであったことを思い出しました。

カウンセラー資格面接試験の時に、祖母が繭から紡いで着物にした物を、洋服に作り替えて面接しました。面接官から驚きのお言葉をいただきました時も大変うれしかったです。「捨てる前の一工夫」が私の目標です。

これまでの取り組み

●市民環境フェスティバル毎年開催

1から5回までは市が開催していましたが予算無しで終了を聞き、市民としてのフェスティバルを継続することにし、16回になります。

●菜の花プロジェクト

市民・事業者・自治会・大学の協働で恩智川にオナモミが多く清掃活動がしづらいことから、菜の花を蒔きました。桜の満開時に咲いてくれました。通勤・通学・散歩・ジョギングされる人の癒しの場となり、新聞にも掲載され遠くからウォーキングにお出でいただけるようになり、景勝地としてもしつかり継

続させる努力と引継ぎを心がけています。



●シニア地域活動実践塾（東大阪市老人大学）

環境自然コースを講師として担当しています。毎年20名の塾生に環境浄化について、行政も交えて見学・講演で身に付けてもらっています。消費者と環境は切り離せない事・未来に残す環境を常に意識する事などを伝えていますが・豊かさに慣れ、まだまだ不足という人の多い事、環境学習の難しさを感じています、

●水辺の楽校

小学5年生120名・教師・大阪府寝屋川水系改修公営所・恩地川防災組合・消防署・カウンセラー協会が水の大切さ、怖さ、防災方法を恩智川の低水路護岸で学習会を毎年開催しています。

●出前講座

コンシェルジュとして、小学・中学生に出向き、紙芝居を交えて、地球温暖化・ごみ問題・水問題など、朝起きて寝るまでの一つ一つの行動に環境はまわりついていることを楽しく、実感を込めてお話しています。

活動事例（活動のキッカケ）

- 国でオイルボールが海や川で多く見られることから、国の施策で生活排水対策指導委員の募集があり、東大阪市・八尾市・柏原市の3市が参加しモデル事業としてイベント開催を始めました。
- 東大阪市消費者団体協議会 50 周年事業として、2 年がかりで「ごみ 0 社会の実現」（プラスチックゼロにトライ）をテーマで市民ホール 7 つのリージョンセンターに、議員・事業者・市民参加してもらい、大阪商業大学 原田禎夫先生に講演していただきました結果「プラスチックごみゼロにトライ」宣言を東大阪市で発令して頂きました。
- シニア地域活動実践塾の OB の方に東大阪市消費者団体協議会に加入していただき、消費者と環境は一对であることを念頭に置き啓発に協力してもらっています。20 年前から「ノーレジ袋」の啓発と風呂敷の包み方の講習会やエコクッキングで食品ロスと生活排水の啓発に心がけています。東大阪市の議会でマイボトル持参を可決していただいたのも啓発の結果で、イベントの粗品にボトルを使い、喜んでいただいています。

苦勞した事・改良点

1960 年ガガーリンが「宇宙から見た地球は青かった」の時代から 62 年 今は多種多様な状況が起こり、どこから手を付けたらよいか迷います。何もかも外国を頼っている我が国は、今見直す時期と思います。ドイツに視察させてもらった時、500 ワット以上の採光「もったいない」と会議室は照明なしでした。見学したマンションの廊下は、照明なしで「暗くて歩けません」と視察団の一人が

申しますと、「慣れれば歩けます」との事でした。スーパー市場は 7 時まで、レストラン・飲食店・その他の店舗は 11 時まで、11 時 30 分には消灯し真っ暗でした。家族とのコミュニケーションを大事にしている風習に、学力の違いも出ると思いました。未来を見据えて環境浄化に一人一人が努力していかなければならないと思います。

今後に向けて

1. 環境意識が他国より低い
 2. 水道水の有難さ・認識度の低さ
 3. 水資源・土地・技術を他国に渡さない
 4. ライフスタイルの見直し。
- 問題点多く、落ち着けません。



富川 昌美



表彰理由：武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会を設立。初代理事長として、首都圏が抱える様々な課題に対して環境保全活動を推進した。次世代の育成に当たっては小学校への出前授業として、プラスチックの種類やリサイクルを解説する他、実験を通じて身近な課題に対して学習する授業等を実施。また、放課後学習で身近な自然と生命の学習を進め、さまざまな工作プランを作成している。

自己紹介

学歴：九州大学（工）・工学博士

職歴：出光興産（株）中央研究所

出光石油化学・商品開発研究所所長

XANTAR BV（オランダ）副社長

オランダでの経験を生かしてプラスチック処理促進協会において LCA データベースの収集・解析を行う。LCA に関して国際会議のほか日本各地で講演・執筆。環境カウンセラー第1期生。武蔵野多摩・環境カウンセラー協議会・ECU の立ち上げに従事。むさしの・こどもエコフォーラム・代表。

これまでの取り組み

- ① 環境カウンセラー全国連合会（ECU）の創生期において環境教育を担当し、地域のカウンセラー諸兄姉と討議・実践を推進した。地元に戻り、「クリーンむさしのを推進する会」で市民活動を実践、ECU での経験をもとに「武蔵野市環境市民会議委員」「環境フェスタ実行委員長」など環境関係で協力。常々「市民の環境意識の向上は大人になってからでは遅い。柔軟な感性を持った子供時代に実験や体験を通じて自然の仕組みや生命の大事さについて学習の機会を与えるのは大人の責任である」と考えていたが、平成20年「むさしのこどもエコフォーラム」を立ち上げました。

- ② 私たちの目指している環境学習の特徴の一つは講義や書物、映像だけでなく、できるだけ実物の持つインパクトを重視することで、そのためには部外のエキスパートの協力を求めたことである。エコフォーラムのメンバーは地元の環境問題の活動を行っているが、学童教育、技術・科学の専門家ではない。そこで現役時代、ECU 時代での人脈を活用し、経験・知識を持ったエキスパートを私たちの活動に組み込むことで効率化を図ることとした。このように武蔵野多摩環境カウンセラー協議会及び ECU の環境教育勉強会のメンバーから選んだ人たちによって標本の借用や実験機器の提供などの協力を得ることが出来た。エコフォーラムの活動はこれらの方々の協力無しには達成できなかったと言って過言でない。このような部外スタッフ、学校の先生方を私たちが調整することで指導要綱・子どもたちの安全を考慮した体制が出来上がったのです。





活動事例

① 小学校・放課後学習

年により変わるが4～8校、放課後の帰宅までの時間のうち1時間足らず、ゲームや宿題をしている子どもたちに季節・地域の出来事をテーマに「お話・工作・遊び」を組み合わせたレシピを作製しました。

② 出前授業

地元関前南小の4～6年生を対象に、10年以上継続して社会科、クラブ指導を担当。＜化石レプリカ、プラネタリウム作り、プラスチックのリサイクル、野鳥と人間の関わり合い＞などを毎年継続しています。指導は環境カウンセラーとスタッフ、外部スタッフが担当。生命の起源、地球外生物と化石の関連、ハヤブサ2の活動は格好のテーマである。野鳥は校庭で放鳥したり手の上に乗せたり、楽しい授業となっています。プラスチックは「プラスチック循環利用協会」からの講師が担当、マイクロプラスチックの環境破壊も講義されます。

③ 市のイベントへの協力

毎年千人程度の参加者で賑わうサイエンスフェスタでは協議会から3人のカウンセラーの協力によるワークショップが定番、環境フェスタでは地域の生物多様性などの説明や自作の「変身カード」ゲームが来場の親子に人気。いずれも第1回からの常連参加です。

④ 野外学習（観察会）

善福寺自然観察会への参加の形で、年4回善福寺公園に於いて開催。昆虫、植物それ

ぞれの分野の専門家が指導するので楽しい。

⑤ その他

夏休み親子学習会、西久保コミセン子ども科学教室など、子どもたちが興味を持つようなテーマで実施し好評である。活動内容を読売新聞・ケーブルテレビ・FMで紹介。

（苦勞した事・改善点）

15年の活動は苦勞と思ったことは殆どなく、楽しいことが多かった。ところがコロナ禍は「三密」「ソーシャルディスタンス」を押し付け、私たちの活動の特徴である「実物を見、触って感じる」スタイルを比例してしました。然しマスク・ゴーグル、机の配置変更で何とかクリアし、更にはワークショップでの対面のやり方、カメラの活用で今まで気づかなかった改良点を見出し新しいメニューを作り出しました。知恵とセンスと子どもたちへの情熱さえあれば道は開けることを痛感したことでした。



今後の課題

一つは環境学習において「三密」「ソーシャルディスタンス」は避けられない課題ですが体験の重さもまた基本的な命題です。オンラインの活用に加えてケースバイケースでの最善策を模索せざるを得ません。次の課題は若い人たちの参加です。シニア層の多い活動の中に若い人、学生が参加することは年齢だけでなく新しい知識と感性が導入されることでもあり、子どもたちの反応もいい。思い切った施策が必要です。

小林 由紀子



表彰理由：市民主体で地域の自然環境を保全するため創意工夫した森づくり、川づくりに取り組んだ。特に、学校教育において、地域河川の特性を生かした調査やゲームを用いて水循環を理解するための継続的学習プログラム、アクティブラーニングを活用した授業を提供した。また、県・岐阜市・美濃加茂市等と連携して木曽川水系の河川環境保全活動を進めるとともに公民館活動の生涯学習で緑のカーテン、省エネ等の普及に取り組んでいる。

自己紹介

「エネルギー」「気候変動」「3R」「水環境」をテーマに楽しく環境を学ぶ講座を目指し、岐阜県内の小中学校の環境学習のアドバイスと講師、親子工作教室や市民講座の企画及び講師をしています。「一人の百歩より百人の一步」たった一人が先に行くよりもみんなが進む事が環境を守るには大切なことだと思います。共感する仲間を増やしたいと環境教育に力を尽くしています。・・

これまでの取り組み

①岐阜県気候変動適応センターより委託され、気候変動に対する教材作りとアンケート調査を行いました。アンケートは小中学校6校で生徒と保護者を対象に行いました。結果を見ると気候変動の最中で生まれており、現状を気候変動と実感することは難しいようです。温暖化＝気温が高いイメージなので温暖化の進行による豪雨や気象変化に対する警戒心が持てず、防災についても必要な基礎知識がない事がわかりました。



アンケートを取って気づいたのが「SDGs」の知名度の高さでした。この言葉はコロナ下、メディアを通じて急速に広まりました。「気候変動」と「持続可能な社会の発展」との関係と「適応策と緩和策」が両輪だというストーリーの教材ができると作成し実証を始めました。今後も「SDGs」の視点で環境を語り動物や身近な物からわかりやすい「環境のつながり」を考える教材作りを目指すつもりです。・・・・・・・・

②公民館での活動は「環境を学ぶには生涯学習の場で」と環境を知る仲間を増やしたいと行っています。「いつでも、どこでも、だれでも」が学べる生涯学習の考え方にふれて「環境学習」も同じ手法でできたら常に新しい学びを伝えられる生涯学習について学びました。対象の年齢やリテラシー、学び方や時間を考慮し内容を計画し、「学びたい人」にいろいろな「学び方」を示す生涯学習の手法は環境学習と同じです。社会教育の場でもっと環境の講座が多くなるよう働きかけています。自治体の依頼で行う「大人のための環境講座」は日進月歩で進む環境技術の「技術革新」をわかりやすく話す良い機会です。「今できることを行いましょう。未来は暗くない」と伝えています。

活動のキッカケ

岐阜県は木曽三川が流れ「清流の国ぎふ」と言われるように川が身近です。県内の小学校の9割が河川学習を行います。毎年「水生生物調査」を行う学校も多く、中にはイベント的な体験だけではなく水の知識や水環境を守る知識と結ぶつく授業を求める学校も多くありました。河川を総合的に理解する体系的なプログラムを組む必要があると考えました。授業で希望が多い「水の循環」「生活排水の知識」と体験活動を結びつけた「水環境学習の体系化」を立案し、楽しく学ぶきっかけとして環境教育プロジェクトWETの「驚異の旅」のアクティビティを活用しプログラムを組みました。この「驚異の旅」アクティビティを行うと子ども達の学習での反応が良く川や水について興味を持って自ら学習することに気づきました。これならいくつかのアクティビティを組み合わせ自ら学ぶ気持ちが持ち続けるプログラムができると考え実践を始めました。



苦労した事・改良点

水環境のプログラムは「楽しい」「面白い」「自分で理解ができた」という授業が目標です。知識を優先するのではなく「楽しさ」「理解しやすいストーリー」を学校の1時間45分の授業の中に入れこむ作業がとても大変でした。さらに環境のテーマを「総合的な学習の時間」に選ぶ学校には打ち合わせをすると環境の授業を通じて「地域の自然を知る」「ふるさと学習」などの目的があ

るのに気づきました。そこで思い切って行ったのが1回2時間の授業を3回の連続プログラムを組むことでした。プロジェクトWET、WILDのアクティビティを活用し水の知識の学習を1時間加え「水の循環―驚異の旅」「生活排水―川を汚したのは誰」「生き物との共生をテーマにしたワークショップみんなのとんぼ池」の3回を行います。



子ども達はアクティビティを経験すると意欲的になるので知識の部分もクイズやワークシートを作り常に改良を加えています。

「海洋プラスチック」のテーマはSDGsの視点で考える環境の授業を求める学校の声から生まれこのプログラムを応用しています。加えて、先生から対象学年の教科の学習進度を聞きさらにわかりやすいストーリーを展開しています。打ち合わせ時に授業の意図と講師への期待を知って年間スケジュールを組み立てています。客観的な事実を情報に基づいて話すことが環境について「伝わる」授業になると実感しています。

今後に向けて

「地球のことを知ることから始めましょう」ときっかけ作りを積極的にします。環境について話し合う人の交流の場が少なくなり自然への認識や危機感がないように思います。SDGsの考え方を海洋プラスチック問題や川の防災等の具体的なテーマで学び市民が手を取り組む事で「持続可能な地球」へ好循環につなげていきたいです。



自然共生社会貢献賞（事業者部門）

田口 文昭

表彰理由：杉並環境カウンセラー協議会で樹木観察会を開催。杉並区主催エコフェスタでは児童生徒向けに木の葉や木の実の工作を指導しているほか、千代田区等の依頼を受け、樹木医として千鳥ヶ淵・真田堀・四谷見附等で桜の診断・保全に当たるなど都市緑化の向上に努力している。また、環境研修の講師や環境カウンセラーを目指すリーダー養成セミナーを開催。プログラム作成と講師として指導を行っている。

自己紹介

茨城県日立市出身

千葉大学園芸学部造園学科

都市および地方計画 専攻

卒業後 ゼネコンの建築設計部に入社。

ランドスケープデザイン、環境計画に従事。

【環境カウンセラーとしての取組み】

① 身近な自然の観察を通して

ローカルな環境問題が、グローバルな地球規模の環境問題に繋がっています。環境は繋がります。身近に感じる公園で自然観察会を実施し、日々の変化をとらえています。善福寺公園上の池、和田堀公園、三井の森公園などで区民の公募による観察会。小中学生の環境学習にも自然観察会を取り入れ、肌で自然を感じています。



② 後継者育成のためのセミナーの実施

持続社会の実現にむけて、EC 登録セミナー、環境教育インストラクターのセミナー

を通して、新たな後継者の育成に努めています。セミナーを通して、参加された他の団体との交流を深め私たちの活動の事例を紹介する中で、問題を共有し一緒になって考えました。



③ 次世代を担う子供達への環境教育

子供達への環境教育は持続可能性社会に取って極めて重要です。SDGs 達成、カーボンニュートラルの目標年が迫っています。杉並区主催のエコ路地フェスタでは、「木育」を通して幼児の頃から、樹木に親しむ為に葉・果実・新芽などを使って似顔を作りながら五感を通して樹木を感じ多様な自然を理解する取り組みをしました。



④ 専門スキルを利用した都市樹木保全 樹木医としての桜保全

千鳥ヶ淵、真田堀、国立駅前通りの桜並木の樹木診断を樹木医の仲間と一緒に調査しています。ソメイヨシノは植栽後数十年が経ち、地球温暖化の影響もあって、かなり衰弱が見られ、樹勢回復が今後の課題です。



【活動事例】

① 善福寺川・神田川で自然観察会：

善福寺川の流域、神田川をフィールドとして自然観察会を実施

- ・樹木観察会 初夏・冬 2回/年
- ・野鳥観察会 (冬) 1回/年
- ・昆虫観察会 (夏) 1回/年
- ・帰化植物観察会 1回/年
- ・善福寺川水質調査 3回/年

② 杉並区内 公立小中学校、高校で 環境学習

小中学校の環境学習を通してゼロカーボン、カーボンニュートラルにむけて実施

- ・杉並区内小中学校 5校
- ・千代田区内小中学校 4校
- ・杉並区内高校 1校

SDGs 達成の年 2030 年を 8 年後に控え、持続可能性の社会の達成を目途に、持続可能性社会とは何かを一緒に考える機会となりました。

③ EC登録支援セミナー、環境教育インストラクターセミナー

環境カウンセラーの後継者を要請する為 ZOOM により参加者を全国から公募のセミナーの企画運営の 1 員として参加。

- ・EC 登録支援セミナー
- ・環境教育インストラクター登録支援セミナー・フォローアップセミナー

④ 樹木医としての活動

- ・ソメイヨシノ樹木診断：

千代田区：千鳥ヶ淵、真田堀、新見附、
江戸城外濠、五番町児童遊園

国立市： 国立駅前通

- ・クロマツ樹木診断：四ツ谷迎賓館
- ・新宿区保護樹木の樹木診断

【苦労した点】

・観察会参加者は、趣味的な話題を求めて応募してくる人が多く、如何に環境に目を向けさせることが出来るかが大きな問題です。知的好奇心に溢れたリピーターに対して、話す内容も、毎回話題を変え、新聞やテレビなど興味深い最新の話題は観察会の話題づくりに役立っています。



【今後にむけて】

・持続可能性社会の実現の為には脱炭素、循環型、共生社会の実現が大きな鍵となります。特に後継者の育成は、小中学校教育現場における環境学習が急務化と思われます。

重岡 廣男



表彰理由：市街地に位置する丘陵地が放置竹林の拡張で荒廃したことから、多様な動植物を保全して市民が憩う緑地の再生に取り組んだ。周辺で活動する個別の4グループを谷津山再生協議会として統合。関係機関と連携して活動し、竹粉を生かした生ごみの堆肥化や貴重なミヤマヨメナの保全を進め、地域全体でごみ減量やリサイクルなど環境学習を推進している。

自己紹介

静岡県静岡市に在住。現在、静岡市沼上資源循環学習プラザ「指定管理：(一財) 静岡市環境公社」に勤務しています。

同施設では、市民や小学生を対象に、ごみの減量とリサイクルに関する講座を行っています。さらに、幼小中高大学などの教育機関や生涯学習施設などにおいても、各種環境学習を展開しています。また、海外や県内外の学生、教育・行政関係者などをお迎えし、環境問題を提起してきました。

これまでの取り組み

① 市街地の丘陵と日本固有種の保全活動

組織を立ち上げ、管理されていない放置竹林に覆われた市街地の丘陵を市民が憩える緑地に再生する活動を行いました。後に、市街地緑地が人の生活にもたらす公益価値や生物多様性などについて、探究する活動を支援してきました。また、日本固有種ミヤマ



植樹する会員



ミヤマヨメナ

ヨメナの自生地調査を行い、地域別形態的特徴を明らかにし、イベントや学会等で報

告してきました。

② ごみの減量とリサイクルに関する学習

静岡市沼上資源循環学習プラザにおいて、ごみの減量化・資源化に関わる学習を展開しています。独自に考案した環境学習には、「竹粉を活用した生ごみの堆肥化」があります。これは、近年、住環境周辺で増殖しているタケを

活用して、毎日排出される生ごみを堆肥化し、野菜栽培などに活用する

学習です。この

学習では、ごみとなって廃棄される未利用



住環境に増殖する竹林



堆肥化の実践



堆肥化の経過

物を資源化することを学び、次世代の社会を構築する際の思考の礎を養うことに役立たせます。生ごみは食品ロスと関係し、一方の管理されていない放置竹林は住環境に影響を及ぼします。このような現状において、これからの時代を生きていく子ども達には、身の周りの問題を自分の事として捉え、問

題の解決を人任せではなく、自発的に解決を試みる意欲を養う教育が必要と思われることから、本学習を展開しています。

また、毎年、社会科見学で来館する市内の小学4年生には、「ごみの減量とリサイクル」講座を開催しています。さらには、保育園児や小学生などを対象として、使用済みの紙と草本植物から取り出した繊維を混ぜて、再生紙づくり（はがき大）を行っています。



ごみ減量講座

この学習では、古紙を有効活用することや身近な自然環境の中にある素材の活用が学べます。



再生紙づくり



再生紙

③ 自然に学ぶ体験学習

地球環境問題が懸念される時代にあって、環境に負荷の少ない生き方をしてきた生物の形態などを模した製品づくり（生物模倣技術）や、木材などから得られるセルロースを材料とする CNF 産業が注目されています。「次世代の産業のヒントは自然界にある」といっても過言ではなく、今こそ、大いに自然界に目を向ける時だと思います。自然環境に目を向け、そこから学ぶためには、子供の頃からの生物観察や自然に触れたりする体験が大いに役立つと思われます。そこで、小学生などを対象に、生物の形態などを模した製品を紹介しながら、屋外において生物の不思議や発見、驚きを誘うことを目的とした学習を行っています。

苦労した事・改良点・成果など

管理の行き届かない竹林問題や身近な自然環境について、多くの市民に関心を持ってほしいと思い里山保全活動を行ってきました。竹林問題に携わる中で、タケを活用し



植物の不思議を話す



顕微鏡観察

て生ごみを堆肥化することを考案できました。この手法を教材として多くの市民や教育機関などに周知できたことは良かったと思っています。ある小学校では、給食の生ごみと竹粉を混ぜて堆肥を作り、ミニトマトを栽培しジャム作りを行いました。この活動では、子供を中心に学校、PTA、自治会連合会などが連携し、学区の産物として販売までこぎつけることができました。この取り組みを通して、子供たちは達成感を味わうことができました。

当施設で行っている環境学習のねらいは、ごみの減量・リサイクルの意識啓発を図ることと、再資源化する思考を養うことや、人の生活には自然界の恵みが深く関わっていることから、自然環境に関心を向けさせることです。しかし、取り組みは容易ではなく、ふさわしい教材開発に苦慮しているところ です。

今後に向けて

今後は、循環型経済の視点に立ち、生活や産業のあり方をみつめる学習や、生物多様性の重要さを周知する学習の展開を図っていきたいと思っています。



環境カウンセラーズぐんま

表彰理由：多年にわたり、群馬県と「みんなの環境フォーラム」を共催。近年は群馬で考えるSDGsをテーマに少子高齢化・自然・交通・温暖化等の解説や提言を行うとともに、FMラジオ放送番組で発信するほか、環境白書を読む会の開催や講師派遣、県エコドライブ推進協議会の事務局運営など幅広い活動を展開している。

自己紹介

環境カウンセラーズぐんまは、市民・行政・企業による環境パートナーシップの構築と支援を行っています。様々な環境活動を通して、環境配慮型社会の実現化に寄与することを目的に、下記に示すような地域貢献活動を行っています。

1. 環境教育活動(ESD)、環境パートナーシップづくり：共通の環境問題を抱える市民、団体、事業者、行政等と一緒に協議し、課題解決に向けた行動を起こすための支援活動。
2. 中小企業の環境配慮型活動の構築支援活動：環境GS、エコアクション21(EMS)の普及活動を通じて、企業の地球温暖化防止策や生物多様性維持の活動などを支援。

これまでの取り組み

①広く一般市民に対して、最新の知見をもとに、環境課題解決を共に考える。

群馬県では、地球環境から身近な生活環境の問題まで、幅広い環境問題に対する理解を深め、多くの県民が環境保全活動に参加することを目的として、平成11年度から「群馬県地域環境学習推進事業」を行ってきました。当会もこの趣旨に賛同し、「みんなの環境フォーラム」の開催を、群馬県の委託事業により毎年度行ってきました。



②ラジオ聴取者を対象に、気軽に環境問題に触れ、考えるきっかけづくりを目指した。

FMぐんまでは、情報番組「EVENIN'」（現在番組終了）内で、市民からの環境問題の疑問に答えるコーナーを通じて、正しい環境情報の提供と、市民に対して分かりやすい環境課題解決のきっかけづくりを行ってきました。当会もこの趣旨に賛同し、担当となった会員が番組内容を構成し、長年にわたって出演・情報発信してきました。



③広く県民に対して、エコドライブの大切さと楽しさを伝えることを目的とした。

群馬県エコドライブ普及推進協議会は、県内の自動車メーカーや自動車関連企業が参画して、広く県内のドライバーに対するエコドライブの普及啓発活動を行ってきました。また、環境イベント「グリーンエコフェスティバル」を年1回開催してエコドライブ体験を含む普及活動とともに、参加した高校生、親子に対して、エネルギー問題、環境問題の啓発活動を行ってきました。当会は組織の立ち上げに協力し、会長職の担当と、事務局運営を行い、県内のエコドライブの普及啓発活動を行ってきました。

④環境白書を編集する担当者及びその内容に係った担当者とともに、環境白書の理解を深める。

地元環境カウンセラーに、群馬県より毎年配布される環境白書について、専門の環境カウンセラーとして内容を読み込み、また記事への質疑などを通じて、環境白書を正しく理解する活動を行ってきました。長年開催してきたことで、自身の環境活動に活かすことができたことと、県担当者と環境課題・政策について直接意見交換を行える場を設けることができました。

活動について

パートナーシップとは、行政・NPO・企業など、立場の異なる組織や個人が、明確な目的のもとに対等な関係を結び、それぞれの得意分野を生かしながら、連携し協力し合うことだと言えます。地球温暖化防止を始めとする様々な環境課題の解決を進めるためには、地域・NPO・事業者・学校・行政といった各主体が、それぞれの立場で活動に取組み、対等で互いに信頼できる関係を

築きながら、活動の輪を広げていくことが大切だと言えます。環境カウンセラーズぐんまは、今後も情報共有のための環境学習会の定期的開催や、市民や事業者の持つ特徴や能力を活かせるような環境活動の支援を行っていきたいと考えています。



苦勞した事・改良点

当会を支える会員の後継者不足問題があります。設立当初の思い入れの強い会員が一人抜け二人抜けしているような状況は、各地の協議会で起きていないでしょうか？そして、各協議会の活動継続状況はいかがでしょうか？魅力のある協議会となるべく、SNS等の情報発信能力の強化や、大学生向けプログラム等の会活動を試行しています。

今後に向けて

市民部門、事業者部門の分け隔て無く、会として様々な活動を行ってきました。会員数が40数名と少ないこともあって、会員皆で自分たちの出来ることを見つけ、協働作業で会活動を運営しています。また、会員の資質向上を目的に、研修会や見学会を中心にした会活動を計画的に行ってきました。なお、会活動の広がりに伴い、今後法人格を持つことについて、持つことのメリットと持たないことで対応出来ないことのデメリットを検討していきたいと思います。

編集

環境カウンセラー表彰事務局

環境カウンセラー全国連合会

代表理事 藤本 晴男

東京都中央区新富 1-15-14 相互新富ビル 307 号室

TEL:03-6280-5345

E-mail: fujimoto.h@minnanoecu.com